

	横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録				
日 時	令和3年 12月1日(水)				
部会名	研究部 器楽部会			主任	加藤 紫乃
参加数	20名	司会	吉岡 美咲	記録	上石 千鶴
研究 内 容	研究部テーマ 音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して				
	器楽部会テーマ 楽曲の特徴や楽曲に合った音、音色 ^{おんしよく} をみつけ、音や音によるコミュニケーションを通して、自分の考えを広げ、豊かな表現を目指す器楽活動				
研究 内 容	○12月授業研究会 授業者：横浜市立谷本小学校 南澤 香里 先生 教材：「ルパン三世のテーマ」 大野 雄二作曲・柊 ゆきえ編曲 (授業者自評)				
	・ウの部分を中心に上げた。 ・フルスコア譜を使用したので、子どもにとって楽曲の構成を理解しやすくなった。 ・スコアを見て、自分のパートと他のパートの関わりや、縦と横との関係を確認する姿が見られた。 ・楽器の編成が多いので、主な旋律を引き立たせる効果的な声かけについて知りたい。 ・同じ役割の楽器同士だけではなく、他の役割の楽器の友達とも合わせるようになってきた。 ・休符やスタッカート奏法やレガート奏法などを効果的に演奏できるような手立ての仕方について知りたい。 (質疑応答・協議)				
研究 内 容	・演奏しながら子どもの理解が進んでいったように見えた。バランスを整えるのと、役割を理解して演奏するのでは、少し違う。難しい編曲だが、子どもたちがよく思考していた。 ・次時の学習で、引き立てたいのは主な旋律であることや、掛け合いの副次的な旋律やハーモニーも大事だけど、主な旋律をつぶしてはいけないことにも気付くようになった。 ・楽器の特性を生かして演奏するとは。子どもたちはどのようにとらえていたのか。 →奏法に近い。曲想にあった音色を出すために、マレットを選択したり打ち方を変えたりした。 アコーディオンでも、引くときと押すときの音色の違いを大切にした。 ・前に出て演奏したパートの順番に教師の意図があったのか。 →主な旋律、副次的な旋律、和音、打楽器の順で演奏していくことが多い。 ・旋律を歌っていたところがよかった。主な旋律をとらえやすい。 ・楽器が苦手な子どもへの手立て。 ・「支える」「引き立たせる」「飾り」などのパートの役割を理解するための手立て。 ・大編成の合奏で、子どもの気付きを引き出すのは大変。主な旋律だけをつないで演奏してみる方法もある。 ・4時間の指導計画だと、焦点を絞って学習を進めてもよかったのではないかな。 (指導講評)				
	《横浜市立戸塚小学校 副校長 澁田美穂 先生》				
研究 内 容	・子どもたち同士や子どもと先生の思いが、音を介して行われていた。 ・子どもと学習を進めていく中で、スコアを色分けしていた。子どもと学びをつくっていた。 ・子どもの意見をたくさん引き出していた授業だった。発問に歌で返す子どもたちの姿が見られた。 ・じっくり考え、互いに考え、次の学びにつながっていている。				

- ・ただ楽器を演奏するのではなく、歌うように楽器を演奏していた。
- ・演奏するたびに、子どもたち自身で課題を見つけて、クリアしていく姿が見られた。
- ・楽曲の構成をとらえやすいような楽譜の工夫をしていきたい。
- ・録音の仕方の工夫もあった。全体合奏では、音楽用の IC レコーダーを使用した。
- ・高学年では、主な旋律を引き立てながら副次的な旋律や和音パートも響き合う合奏を目指したい。また、曲の特徴に合った音色を求めている。

《横浜市立桜岡小学校 校長 後藤俊哉 先生》

- ・高学年の器楽イ（イ）には、「多様な楽器の音色と響きと演奏の仕方との関わり」とある。
これまでの楽器の演奏の学習経験を得たり生かしたりしながら進めていく姿を目指したい。
- ・全体で拍の共有をすることが大切。楽譜をよりどころにする。ベースラインが重要となる。
テンポは 1 1 6 なので、もう少し遅いテンポで演奏してもよかった。
- ・「きれきれ」にするには、休符を意識することを大切にする。
- ・楽曲の大切なところは、旋律やリズムが同じになる。
- ・副次的な旋律が主な旋律を引き立たせるために、フレーズの重要さを考える。
- ・難しいところは、記譜どおりではなく、簡単にすることも支援になる。
- ・子どもが何を工夫したら「おおむね満足した姿」と評価するか。